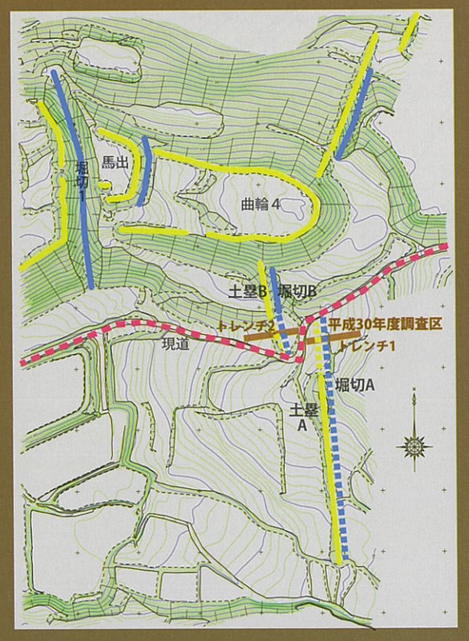
③ 平成30年度 発掘調査の成果

◇トレンチ１では、堀切A と土塁A の基盤とみられる部分を検出しました《写真１》。土塁と堀切が組み合わさり、南北へ伸びていたと推定されます(下図)。
⇒柏木城跡曲輪４東端部と、南側の山斜面との間を堀切と土塁で遮断することで、戦をしていた伊達政宗の軍勢の侵攻を防ごうとする意図がうかがわれます。

◇トレンチ２では、堀切B と土塁B の基盤とみられる部分を確認しました《写真2》。
⇒曲輪４切岸から延びる竪堀・堀切と土塁が、現道近くまで伸びているようです。

◇堀切A・土塁A と、堀切B・土塁B が「くい違い」となっており、現道(赤点線)がその間を折れ曲がっていることが確認されました。
⇒現道が戦国時代柏木城の遺構に規制されていることから、この道が、柏木城に伴うものであり、道筋も戦国時代当時からほとんど変わっていないものと思われます。
⇒堀・土塁で挟んで「くい違い」状の出入口とし、細く複雑化することで、道を往来する人の監視や防御性を高めたものと考えられます。
⇒柏木城跡主郭周辺の土塁が、南側に手厚いのは、この道を意識してのことと思われます。

これまでの調査から、柏木城跡は遺構の残りがよく、残された遺構群の配置や地形との関連などから、会津侵攻をもくろむ伊達政宗に備えた城郭構造や、米沢道の城内への取り込みによる「関」的構想等の具体像を知ることができる遺跡であることがわかってきました。また、曲輪・虎口・通路の内側へ石積を大規模導入することによって、家臣・旗下・領民へ武威を示していたことも推測され、中世会津領主蘆名氏の領国防衛の考え方がうかがわれる城郭遺跡として貴重です。また、16世紀後半のごく短期間《文献からは天正13年(1585)から17年頃(1589)》が整備・機能の盛期および最終段階であることから、その頃の蘆名氏による築城技術を知る上で稀有な遺跡であり、東北地方南部・会津地方の指標城郭としても代表的なものと言えます。



【柏木城跡へのアクセス】

柏木城跡は
私有地です。
見学の際はマナーを
守りましょう。

発行・お問い合わせ先

北塩原村教育委員会

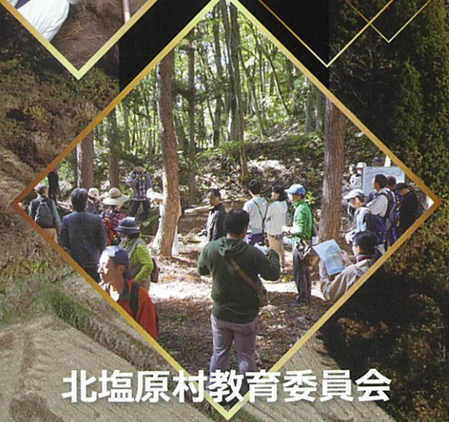
《平成31年3月29日刊行》

〒966-0402 北塩原村大字大塩字下六郎屋敷2134番地
TEL.0241-23-5236

印刷／三洋印刷株式会社

平成30年度

柏木城跡の発掘調査



北塩原村教育委員会

① 柏木城跡とは・・・

柏木城は戦国時代の終わり頃、会津の蘆名氏が築城した山城で、米沢の伊達氏による会津侵攻を防ぐ目的で造られたと伝えられています。天正13 年(1585)、伊達政宗の桧原略取からはじまった会津侵攻の際、大塩に城があったという記述があり(政宗記)、今からおよそ430 年前頃には存在していました。

城内には多彩な「石積み」による施設が残されているのが特徴で、中心部の出入口(虎口)や土塁の壁、区画施設など、多くの場所に石積みの遺構がみられます。

【柏木城と米沢路(天正13年頃を想定)】

(kashmir3D で作成)

② 発掘調査の目的

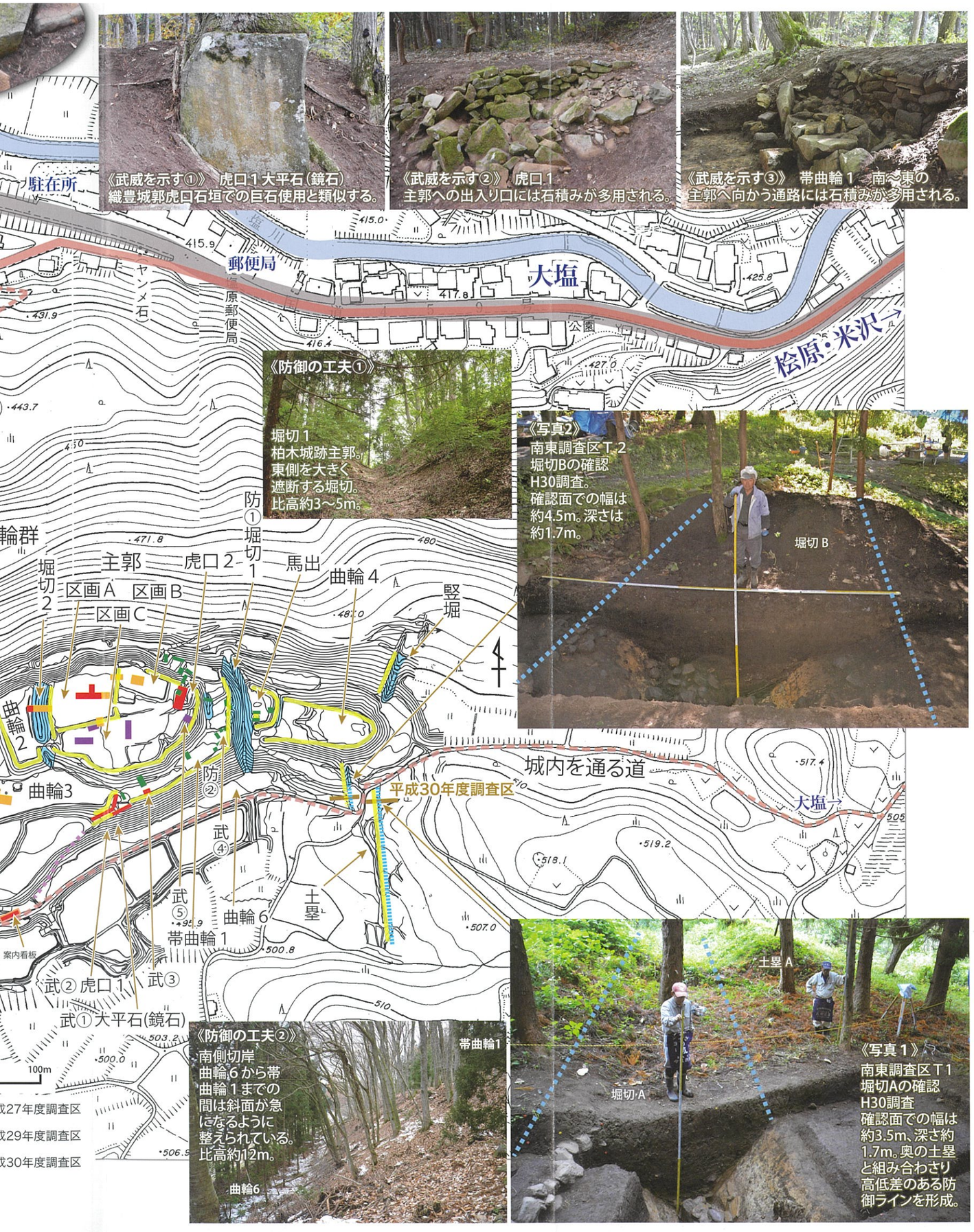
北塩原村では、村内に多数残されている戦国期の城館跡や江戸時代の米沢街道・鉱山跡など、歴史的な遺跡群を将来にわたって適切に保存・整備・活用していくために、平成20年度から有識者による検討委員会を設け遺跡の検討や活用への助言を得てきました。

平成26年度からは、柏木城跡の内容をより詳しく調べるため、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会のもと、地権者の方々や地元の皆様のご理解とご協力を得て発掘調査をはじめました。発掘調査は今年で5年目となります。

柏木城跡は現在、北塩原村指定史跡です。村では将来的に国の史跡指定を目指しており、指定に向けて、文化庁・福島県教育委員会文化財課のご指導も受けています。

平成30年度 柏木城跡の発掘調査

轟け、蘆名の“武威”!! 伊達政宗に備えよ!!



《武威を示す①》 虎口１大平石（鏡石）
織豊城郭虎口石垣での巨石使用と類似する。

《武威を示す②》 虎口１
主郭への出入り口には石積みが多用される。

《武威を示す③》 帯曲輪１ 南～東の
主郭へ向かう通路には石積みが多用される。

《武威を示す④》主郭へ向かう通路（帯曲輪1南東隅）に石を積んで区画施設を作っている。

《武威を示す⑤》主郭への玄関口となる虎口２付近に石を積む。階段状に積み、高さを出している。

柏木城跡・空撮写真（2018年撮影）

《防御の工夫①》
堀切１
柏木城跡主郭。
東側を大きく
遮断する堀切。
比高約3～5m。

《写真2》
南東調査区Ｔ2
堀切Bの確認
H30調査。
確認面での幅は
約4.5m。深さは
約1.7m。

《防御の工夫②》
南側切岸
曲輪6から帯
曲輪１までの
間は斜面が急
になるように
整えられている。
比高約12m。

《写真１》
南東調査区Ｔ1
堀切Aの確認
H30調査
確認面での幅は
約3.5m、深さ約
1.7m。奥の土塁
と組み合わさり
高低差のある防
御ラインを形成。

【北塩原村教育委員会】